

作手地域まちづくりアンケートの結果

実施機関：作手地域協議会

作手地域まちづくり計画（仮称）を策定するにあたり、作手地域に暮らす皆さん一人ひとりの意見を反映させるため、昨年度、アンケートを行いました。

アンケートにご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げますとともに、このアンケートの結果を計画づくりに生かしてまいります。

集計に手間取り、大変遅くなってしまい申し訳ございませんが、アンケートの結果を次のとおり報告します。

1 アンケートの概要

実施時期

平成25年11月1日～12月20日

実施対象

作手地域に在住する小学校4年生以上の全住民

実施方法

小中学生における配布・回収は小中学校に依頼し、高校生以上の配布・回収は、各行政区長への依頼と直送により実施。

集計結果の記載方法

アンケートは、「選択方式」を採用し、「複数選択」を可としている設問があります。これらの設問で比率を表示する場合は、回答者数“n”の数値を示し、回答者数に対する割合を表記しています。なお、割合は整数値で表記しているため、合計が100%にならない場合があります。また、一部の回答者数が少ない設問は、回答数で比較しています。

回収率

小学生・中学生は100%、高校生以上が79%と高い有効回収率でした。

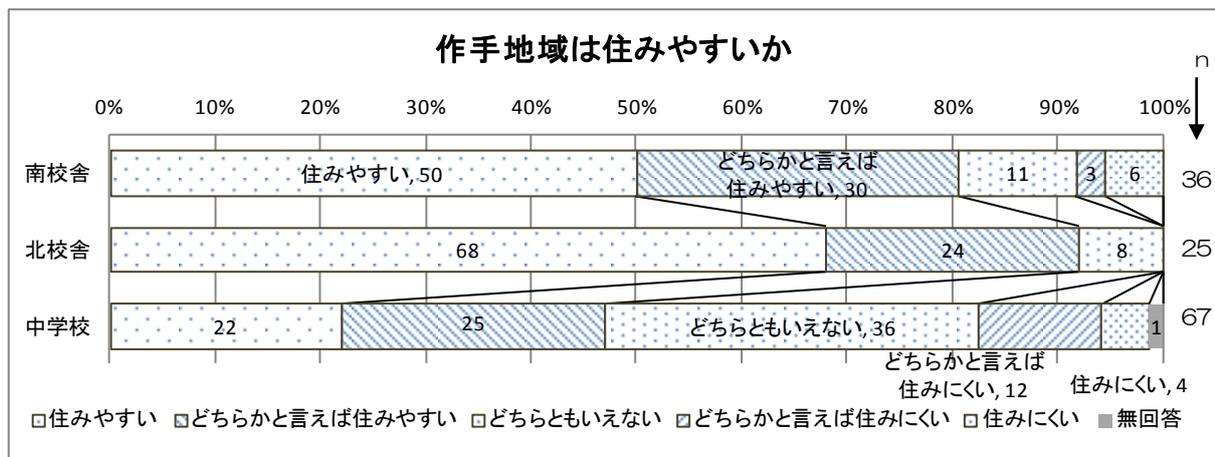
区分	小学生	中学生	高校生以上	合計
配布数	61	68	2,491	2,620
回収数	61	68	2,098	2,227
回収率	100.0%	100.0%	84.2%	85.0%
有効回答者数	61	68	1,974	2,103
有効回答率	100.0%	100.0%	79.2%	80.3%

2 小・中学生の意見

1 作手地域は住みやすいと思いますか。

小学生では、「住みやすい・どちらかと言えば住みやすい」合わせて 80%を超えているが、中学生では、50%を下回っている。

「住みやすい」理由は、大半の児童生徒が「自然環境がよい」をあげ、「住みにくい・どちらとも言えない」理由は、買い物や通学など日常の不便さに重点を置いた記述が多い。



		小学校南校舎	小学校北校舎	中学校
住みやすい	自然環境がよい	19	17	9
住みにくい・どちらとも言えない	店が少なく不便	5	0	10
	通勤・通学・通院の便が悪い	2	0	9

2 作手地域を良い所にするために、あなたが協力するとすればどんなことをしたいと思いますか。

小中学生ともに、「ゴミ拾いをする」という回答が特に多い。その他に多い回答は以下のとおり。

主な回答5つ	小学校南校舎	小学校北校舎	中学校
ゴミ拾いをする	25	15	41
花木の植栽・管理をする	6	1	6
行事に参加する	2	2	9
ゴミを捨てない	2	5	4
ゆるキャラをつくる	10	0	0

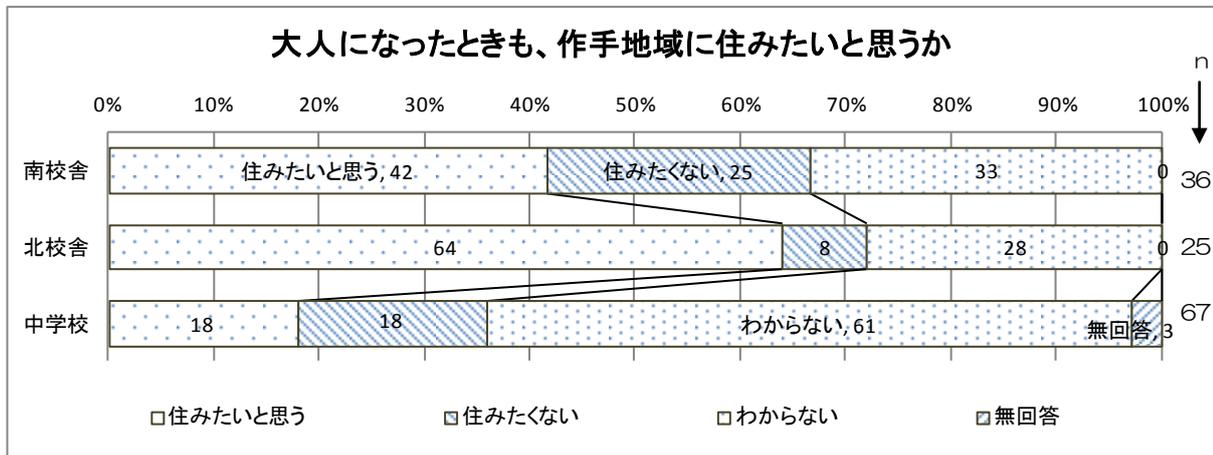
3 大人になったとき、作手地域がどんな地域になっていたら良いと思いますか。

小中学生が望む作手地域の将来像は、自然を大切にし、地域みんなが助け合う地域を願っている。また、商店の充実や観光客による賑わいを望んでいる。

主な回答5つ	小学校南校舎	小学校北校舎	中学校
山、川、田んぼなど、作手の自然を大切にする地域	24	22	45
お店がたくさんあり、住むのに便利な地域	22	11	31
作手地域に住む人がみんな仲良しで、お互いを助け合う地域	22	17	27
道の駅や湿原、城址などにたくさんの人が訪れ活気のある地域	14	4	37
お祭りなどの伝統行事など、地域の行事を大切にする地域	5	12	31

4 大人になったときも、作手地域に住みたいと思いますか。

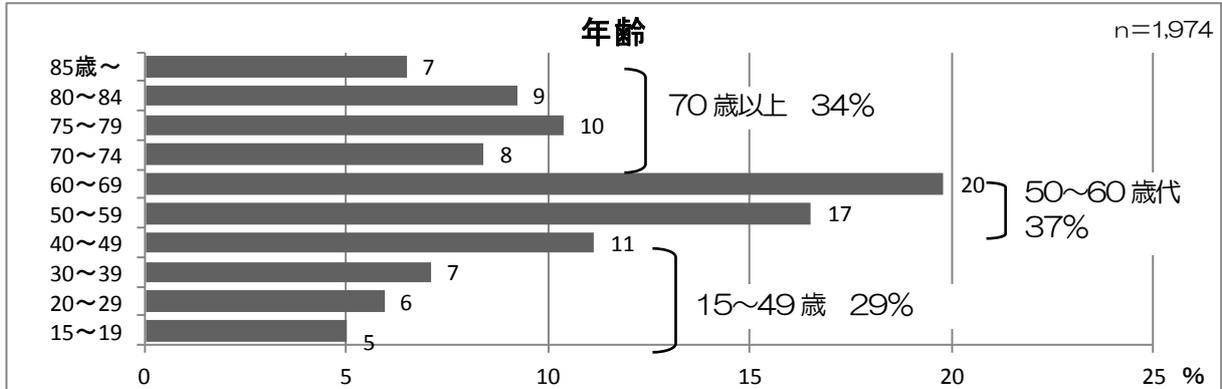
小学生では「住みたいと思う」の割合が最も高いのに対し、中学生では「わからない」の割合が最も高い。



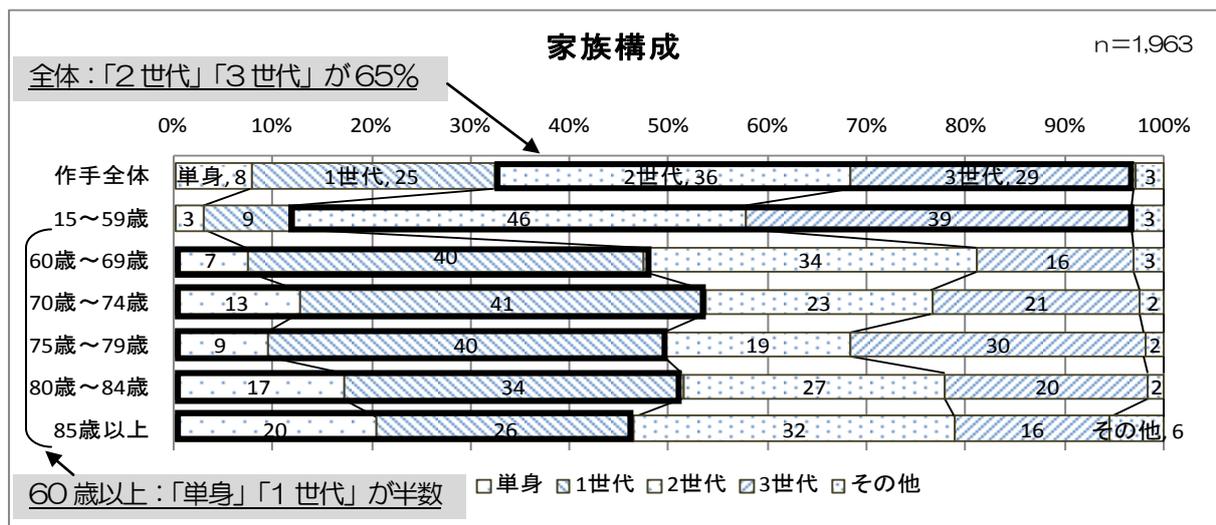
3 高校生以上の意見

1 回答者の属性

年齢 作手地域の実際の人口構成とほぼ同じ比率であり、各年齢層から均等に回答を得た。

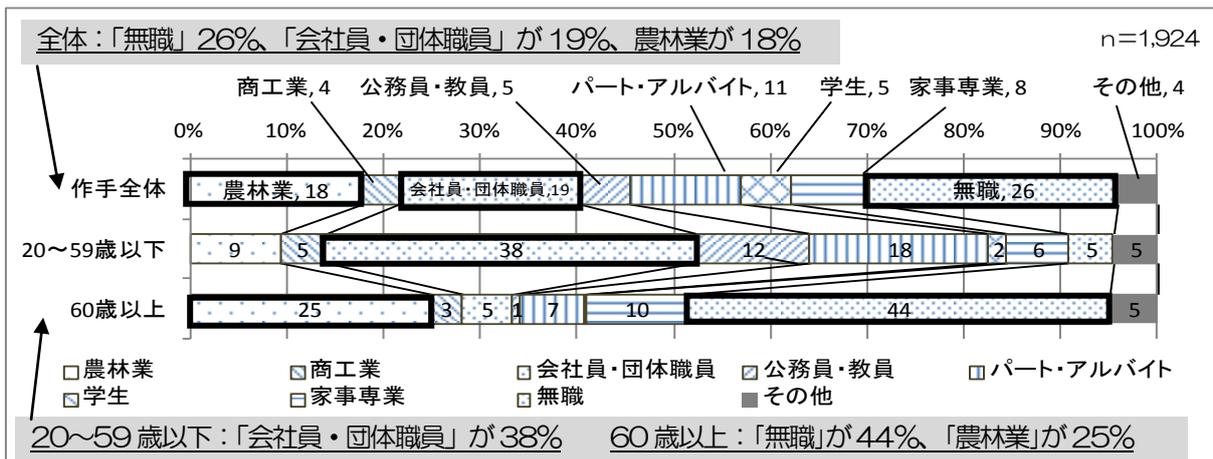


家族構成 全体では「2世代」「3世代」の割合が高い。60歳以上では「単身」「1世代」が半数を占め、85歳以上では単身者が2割を占める。



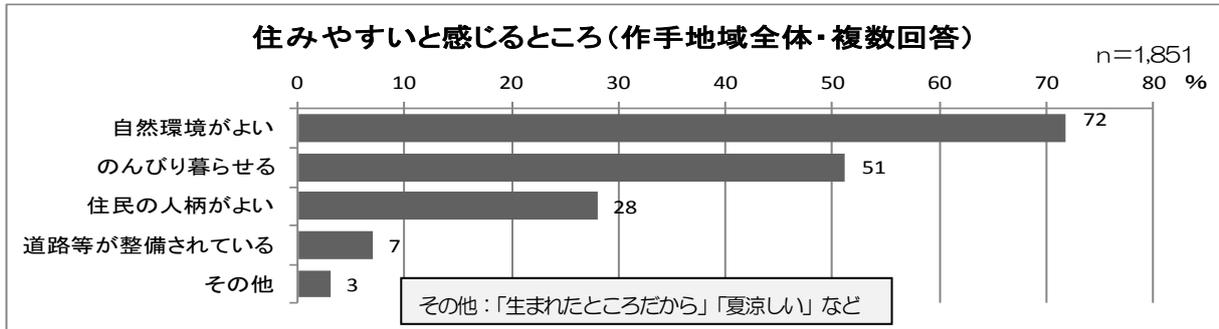
職業 「無職」「会社員・団体職員」「農林業」の順に割合が高い。

「20～59歳」は「会社員・団体職員」の割合が高く、「60歳以上」は「無職」「農林業」の割合が高い。



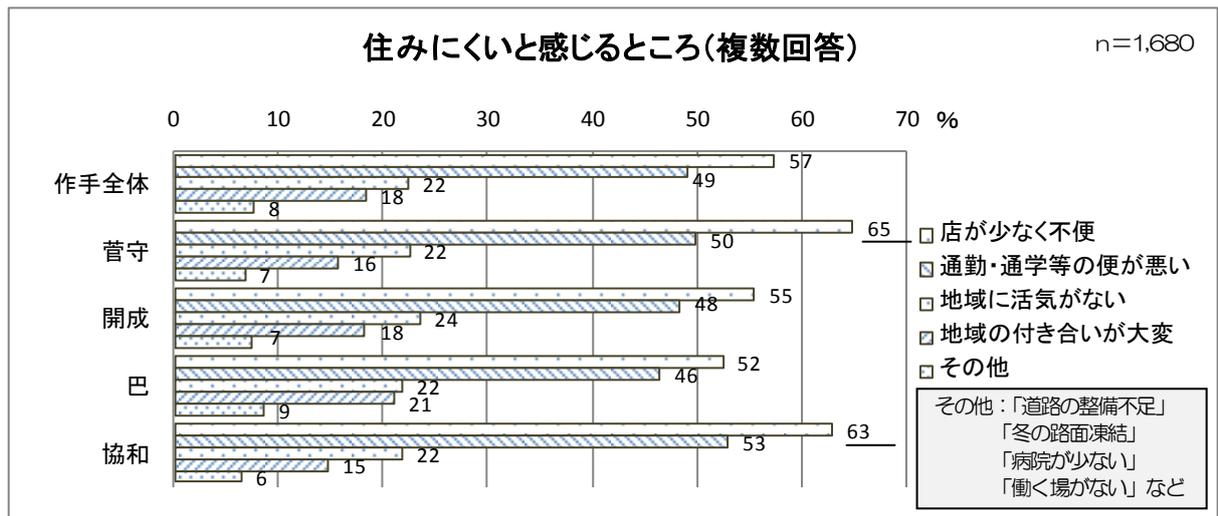
2 住みやすさ・作手の将来像

住みやすいと感じるところ 「自然環境がよい」「のんびり暮らせる」の割合が高い。「その他」については「生まれたところだから」「夏涼しい」などの回答があった。



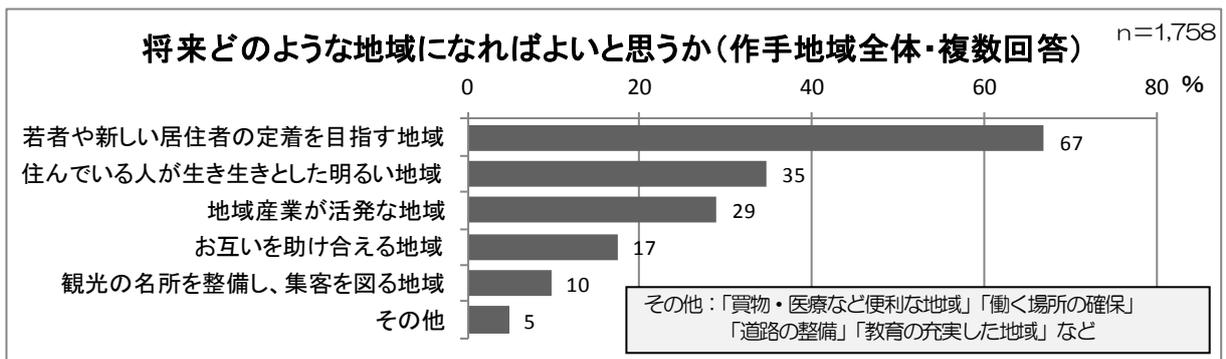
住みにくいと感じるところ 「店が少なく不便」「通勤・通学等の便が悪い」の順に割合が高い。「その他」については「道路の整備不足」「冬の路面凍結」「病院が少ない」「働く場がない」などの回答があった。

地区別では、菅守、協和で「店が少なく不便」の割合が特に高い。



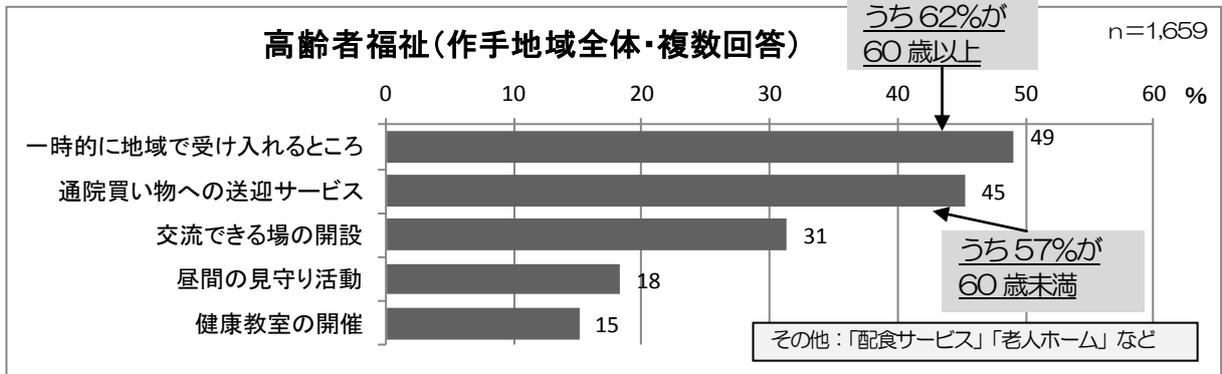
将来の作手地域 「若者や新しい居住者の定着」の割合が最も高く、次いで「住んでいる人が生き生きとした明るい地域」「地域産業が活発な地域」の順に高い。

その他には「買物・医療など便利な地域」「働く場所の確保」「道路の整備」「教育の充実した地域」などの回答があった。

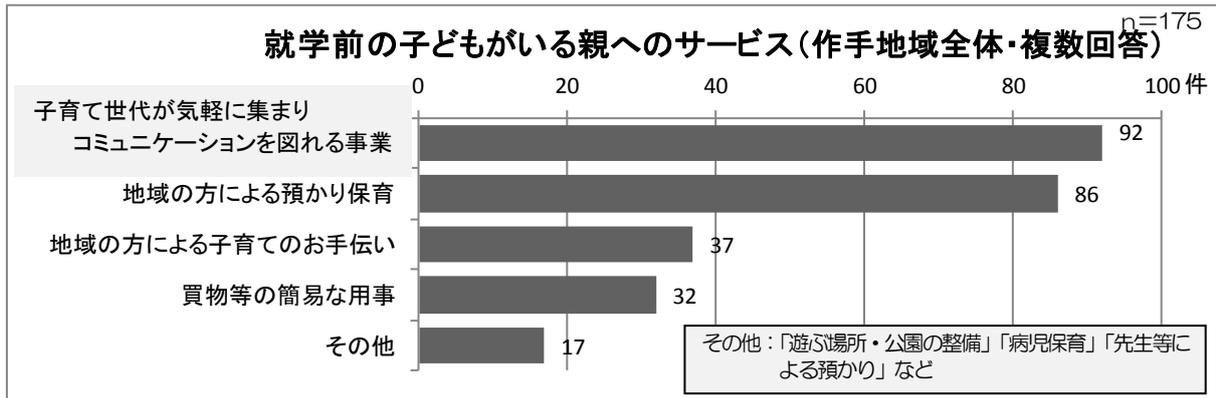


3 高齢者、児童、中高生に関する事業について、あったらいいと思うもの（1）

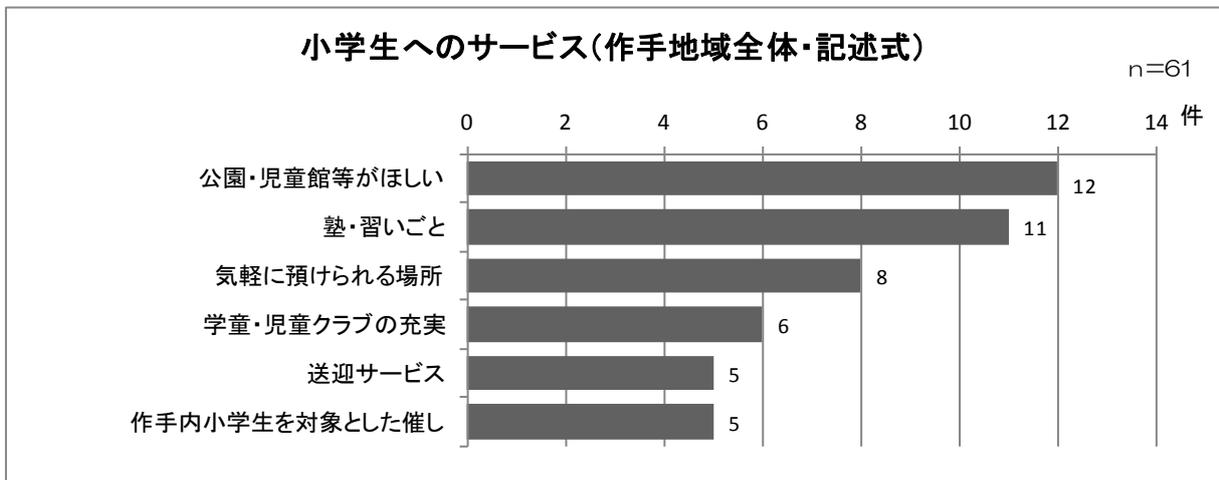
高齢者福祉 「一時的に地域で受け入れてくれるところ」「通院買物への送迎サービス」の順に割合が高い。



就学前の子どもがいる親へのサービス 「子育て世代が気軽に集まりコミュニケーションを図れる事業」「地域の方による預かり保育」の割合が半数と高い。「その他」については「遊ぶ場所・公園の整備」「病児保育」「先生等による預かり」などの回答があった。

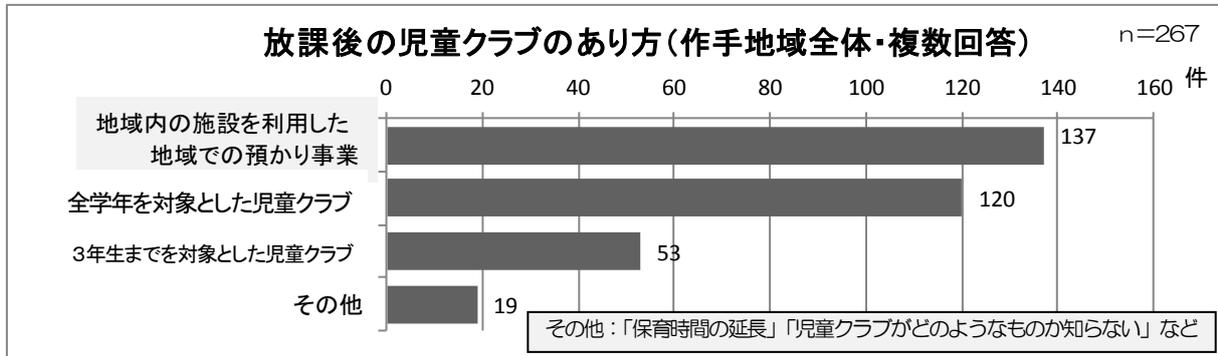


小学生の子どもへのサービス 「公園・児童館等がほしい」「塾・習いごと」「気軽に子どもを預けられる場所」の順に高い。

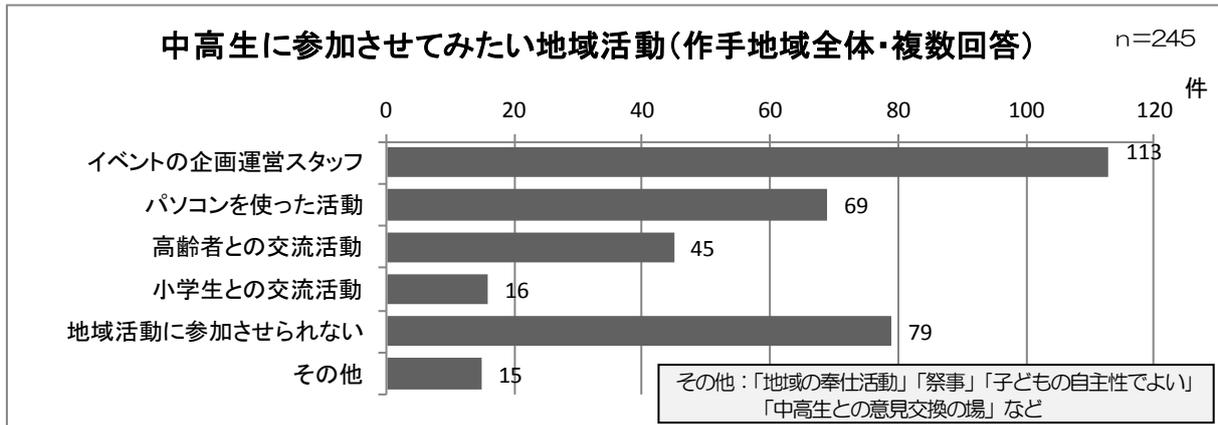


3 高齢者、児童、中高生に関する事業について、あったらいいと思うもの（2）

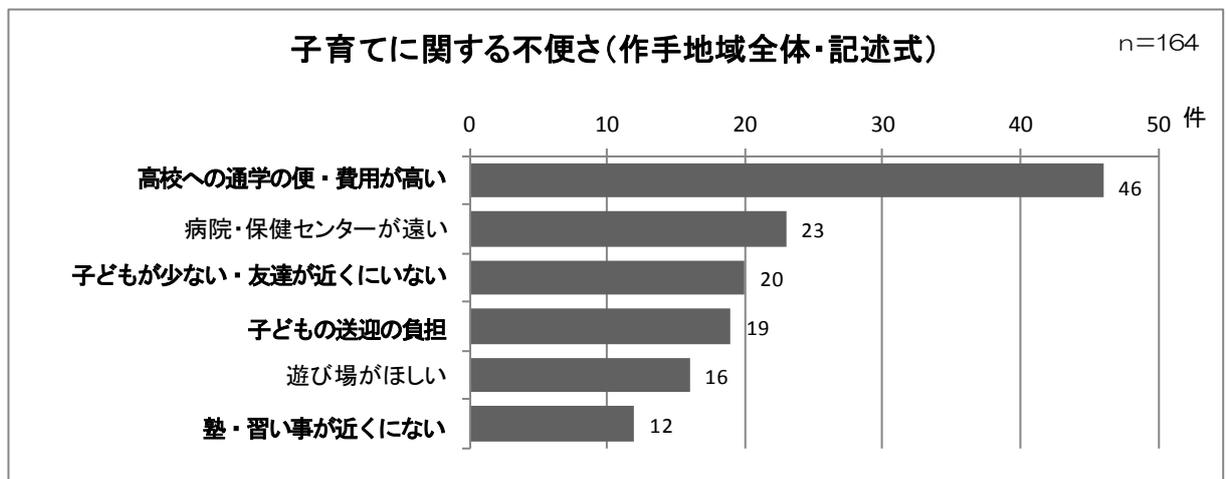
放課後児童クラブ 「地域内の施設を利用した地域での預かり事業」「全学年を対象とした児童クラブ」の順に割合が高い。



中高生に参加させてみたい活動 「イベントの企画運営スタッフ」の割合が最も高い。一方で「勉強や部活動などが忙しく、地域活動に参加させられない」も次に高い。



子育てに関する不便さ 「高校への通学の便・費用が高い」が最も多く、「病院・保健センターが遠い」「子どもが少ない・友達が近くにいない」「子どもの送迎の負担」「遊び場がほしい」の順に多い。

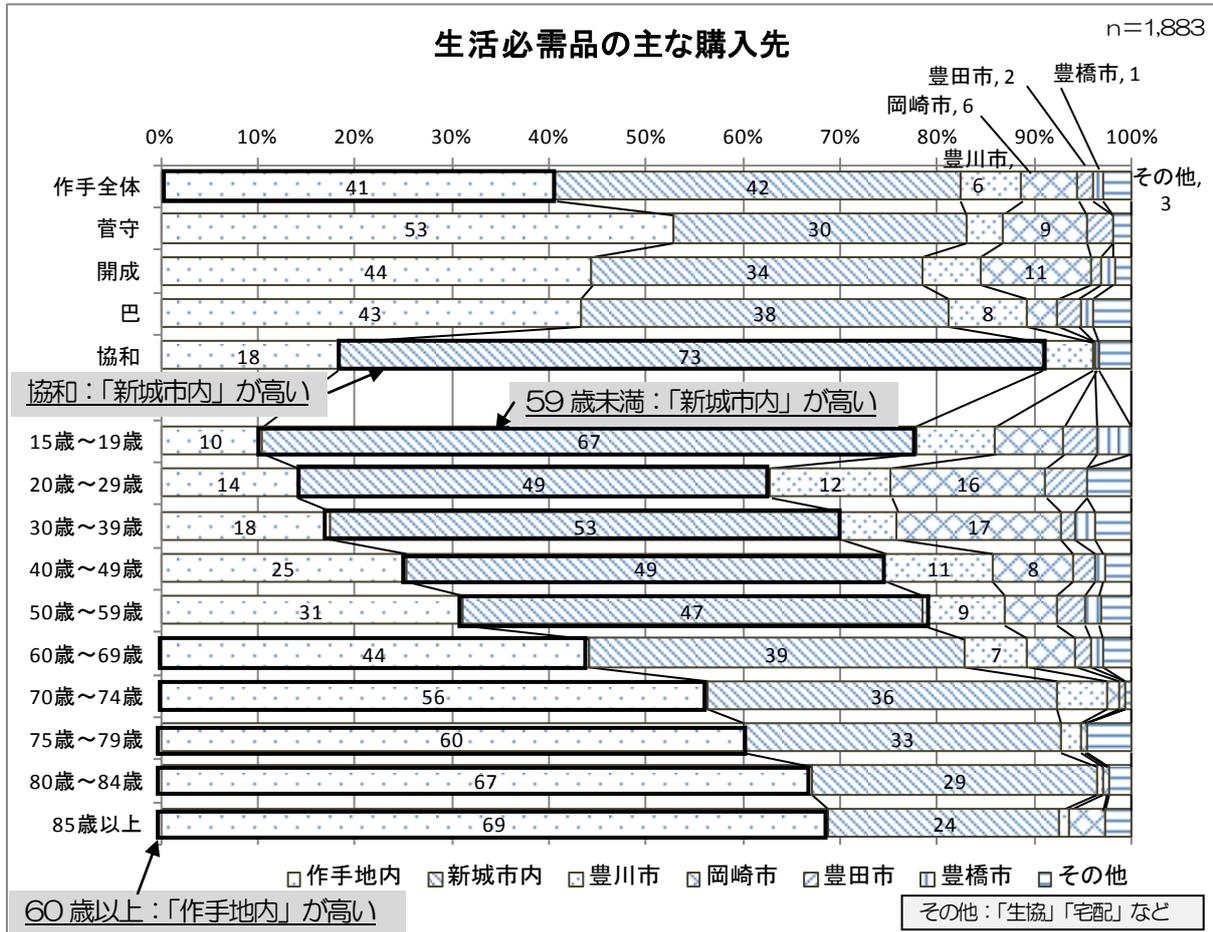


4 日々の暮らし・安心・安全 (1)

生活必需品の購入先 全体では、「新城市内」「作手地内」の順に割合が高い。

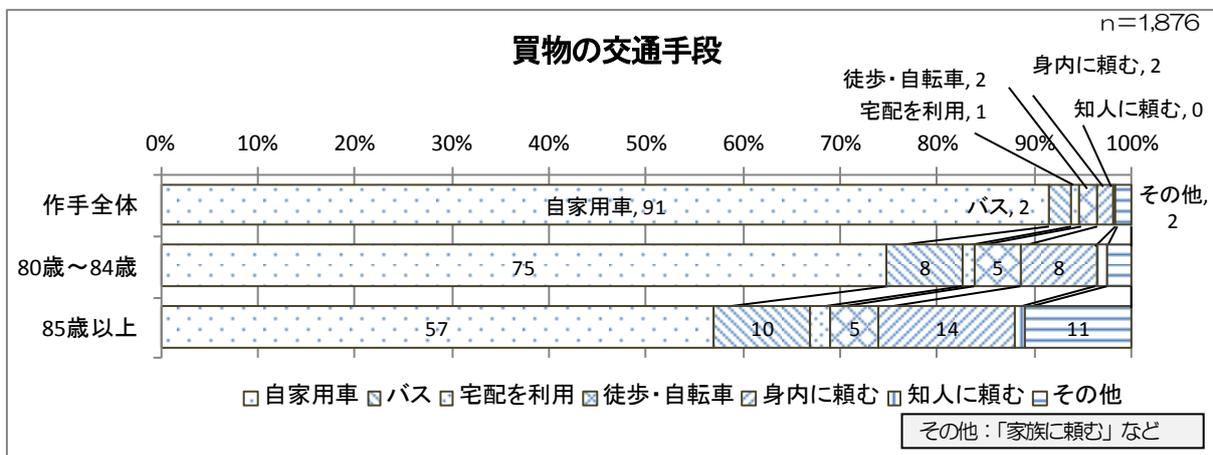
地区別では、菅守で「作手地内」、協和で「新城市内」の割合が高い。

年齢別では、59歳未満では「新城市内」、60歳以上では「作手地内」の割合が高い。



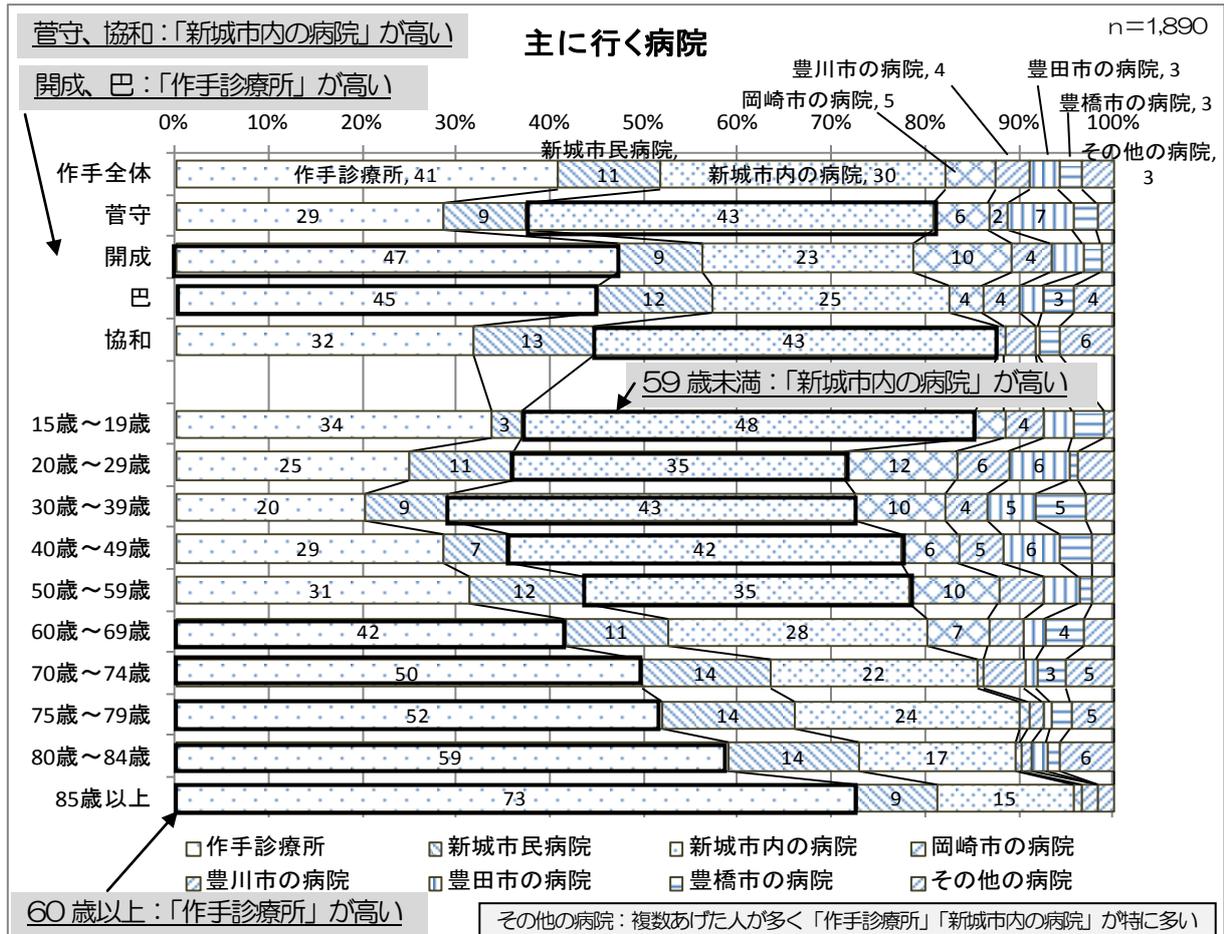
買物の交通手段 全体では、「自家用車」を使う人がほとんどである。

年齢別では、80歳を超えると「自家用車」の割合が低くなるものの、80歳以上でも半数以上が「自家用車」で移動している。

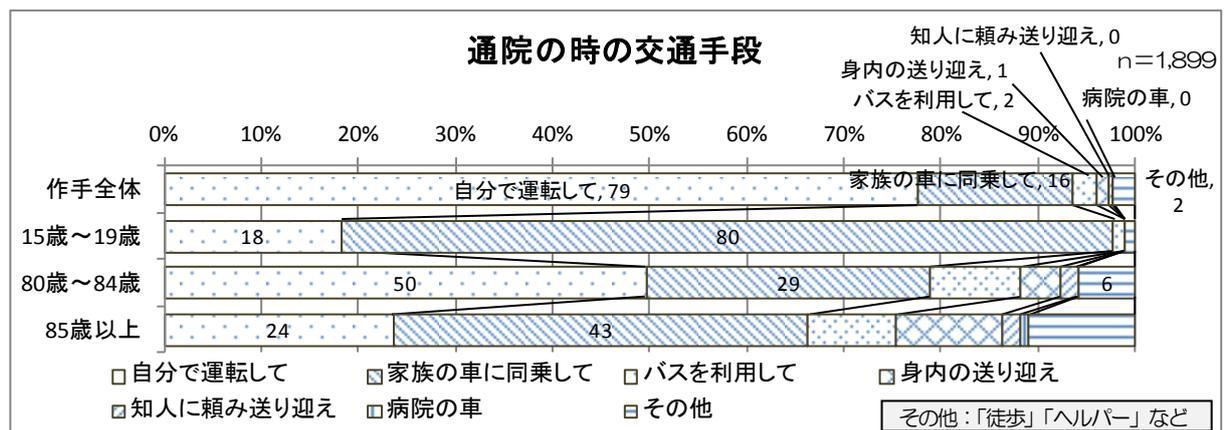


4 日々の暮らし・安心・安全 (2)

主に行く病院 全体では、「作手診療所」「新城市内の病院」の順に割合が高い。「その他の病院」については、複数の病院をあげた人が多く、中でもこの2つの病院が多い。
 地区別では、開成、巴では「作手診療所」の割合が高く、菅守、協和では「新城市内の病院」の割合が高い。
 年齢別では、15～59歳では「新城市内の病院」の割合が最も高く、60歳以上では「作手診療所」の割合が最も高い。



通院の時の交通手段 全体では、「自分で運転して」の割合が8割近くを占める。
 年齢別では、「15～19歳」と「85歳以上」で「家族の車に同乗して」の割合が最も高く、他の年齢層では「自分で運転して」の割合が最も高い。



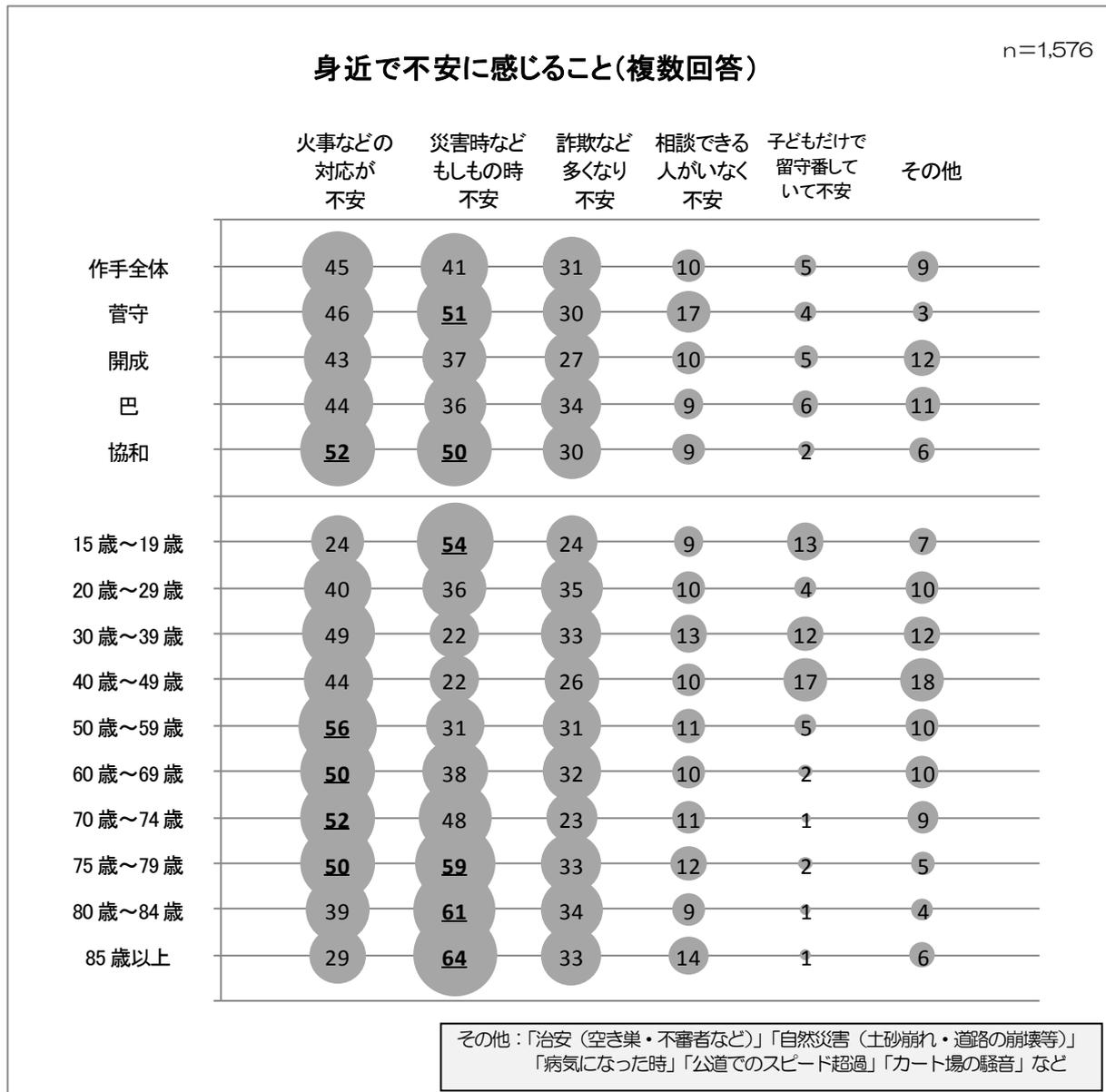
4 日々の暮らし・安心・安全（3）

身近な不安 全体では、「火事などの不安」「災害時などの不安」の順に割合が高い。

「その他」については「治安（空き巣・不審者など）」「自然災害（土砂崩れ・道路の崩壊等）」「病気になった時」「公道でのスピード超過」「カート場の騒音」などの回答があった。

地区別では、菅守で「災害時などの不安」、協和で「火事などの不安」「災害時などの不安」の割合が高い。

年齢別では、15～19歳、75歳以上で「災害時などの不安」、50～75歳で「火事などの不安」の割合が高い。



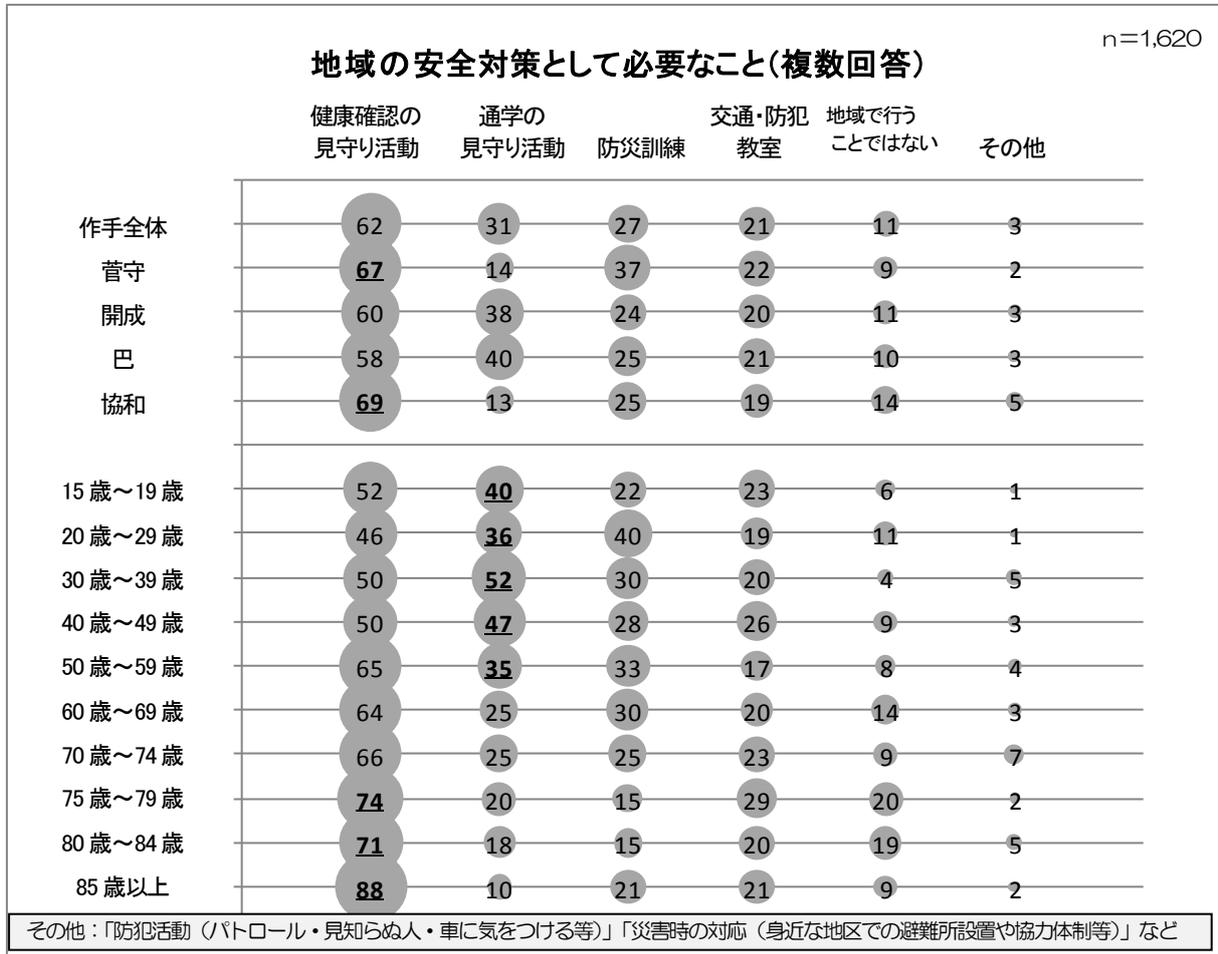
4 日々の暮らし・安心・安全（4）

地域の安全対策として必要なこと 全体では、「健康確認の見守り活動」の割合が高い。

「その他」については「防犯活動」や「災害時の対応」などの回答があった。

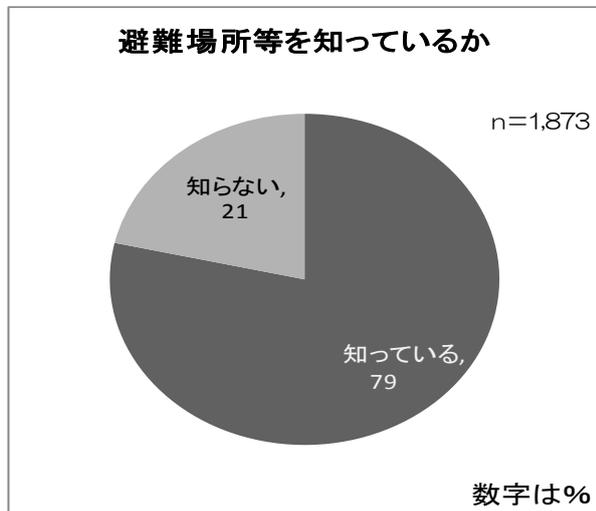
地区別では、菅守、協和で「健康確認の見守り活動」の割合が高い。

年齢別では、15～59歳で「通学の見守り活動」の割合が高い。



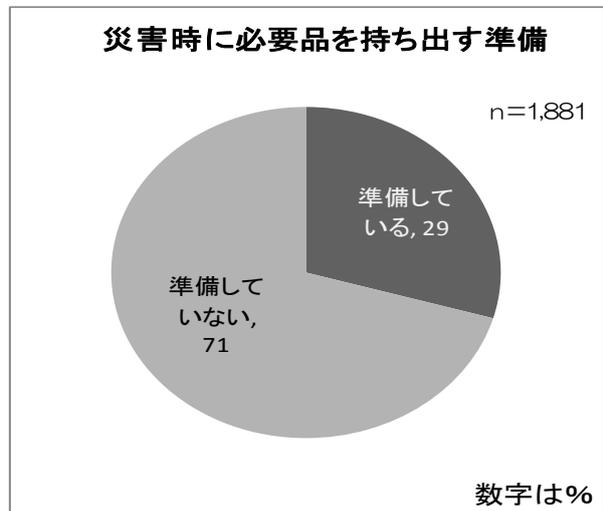
避難場所を知っているか

「知っている」が8割と高い。



災害時に必需品を持ち出す準備

「準備していない」が7割と多い。



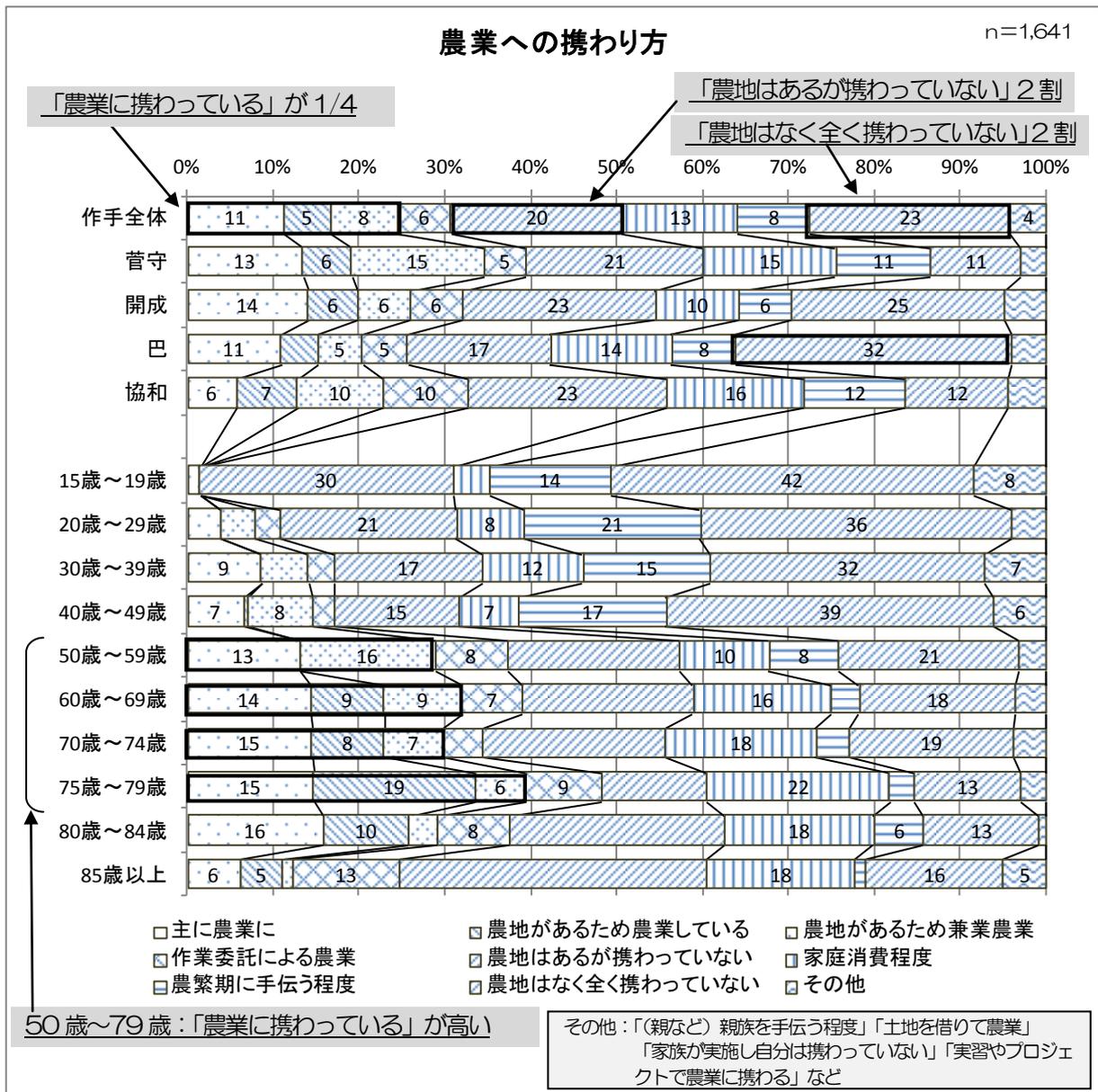
5 農業について (1)

農業への携わり方 全体では、「農地はなく全く携わっていない」「農地はあるが携わっていない」の割合がそれぞれ2割と高く、一方で「農業に携わっている（主として携わっている、農地があるため農業をしている）」の割合は1/4程度ある。

「その他」については「(親など) 親族を手伝う程度」「土地を借りて農業」「家族が実施し自分は携わっていない」などの回答があり、高校生や大学生について「実習やプロジェクトで農業に携わる」という回答もあった。

地区別では、巴地区で「農地はなく全く携わっていない」割合が高い。

年齢別では、50歳～79歳で「農業に携わっている」の割合が高い。

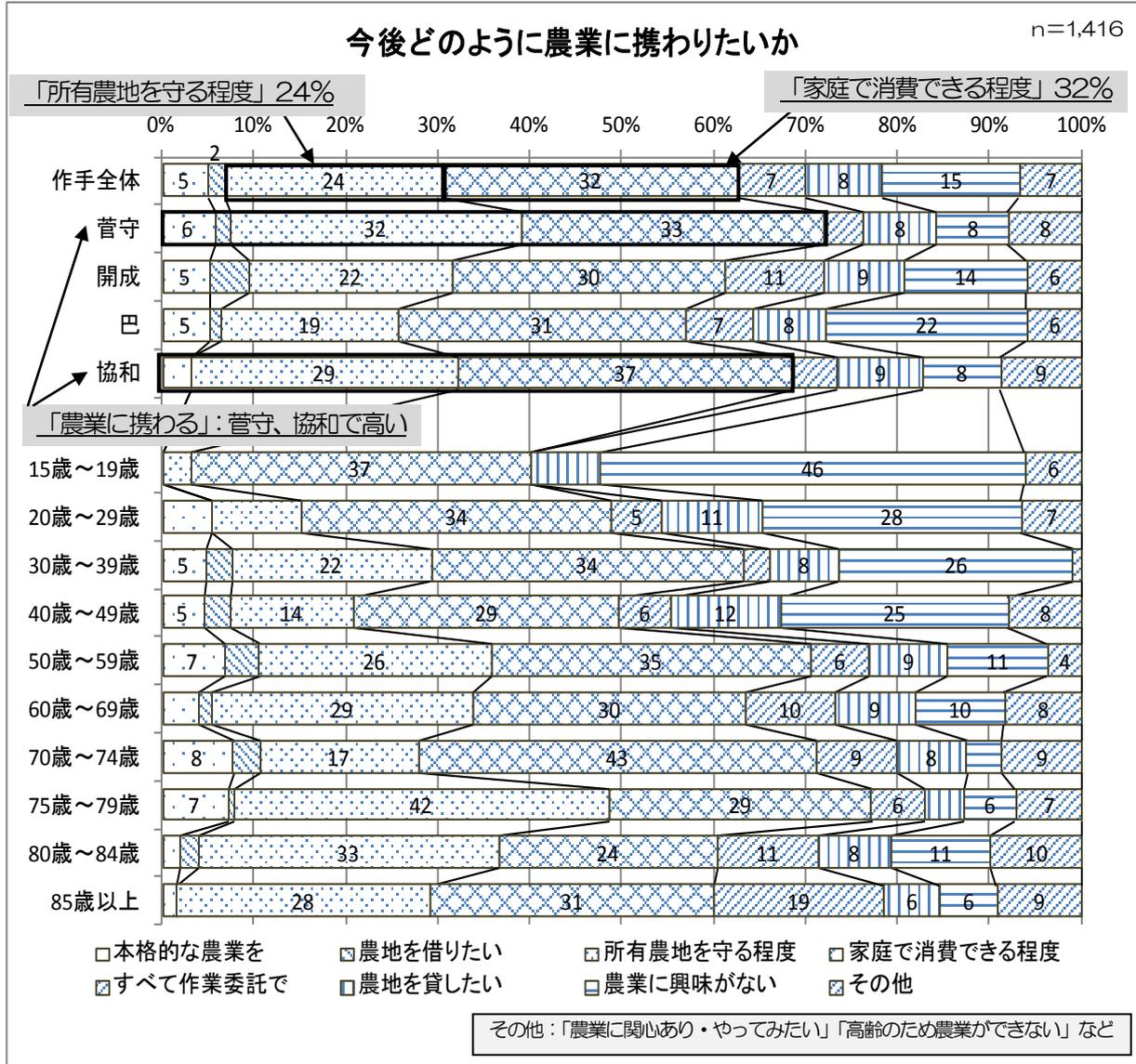


5 農業について (2)

今後どのように携わりたいか 全体では、「家庭で消費できる程度」「所有農地を守る程度」の順に割合が高い。「その他」については「農業に関心あり・やってみたい」「高齢のため農業ができない」という回答があった。

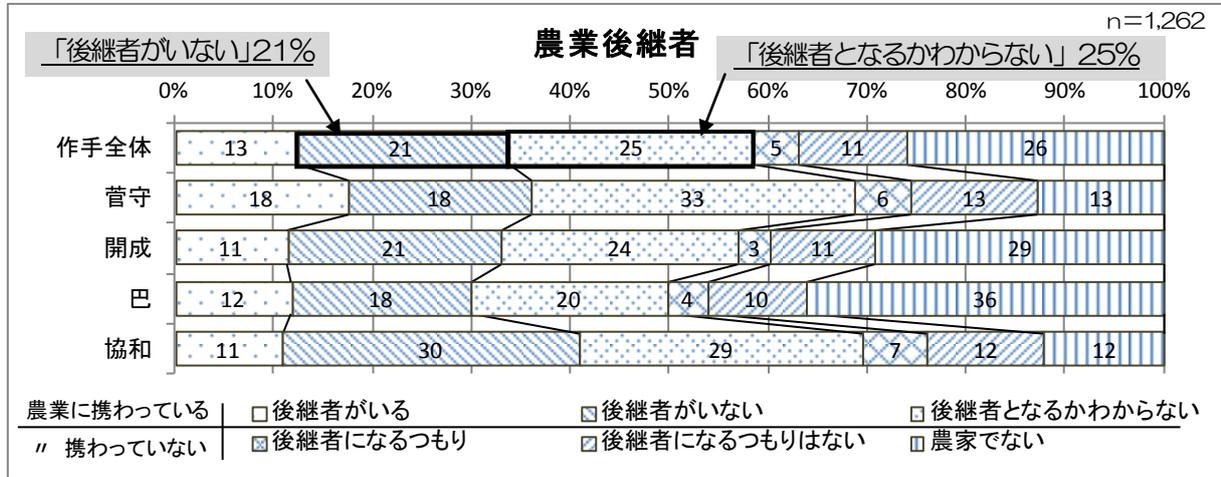
地区別では、「農業に携わる（本格的な農業・農地を借りたい・所有農地を守る程度・家庭で消費できる程度）」の割合は菅守、協和で高い。

年齢別では、15～19歳で「農地はなく、農業に興味がない」の割合が多く、その割合は70歳代まで年齢とともに低くなる。

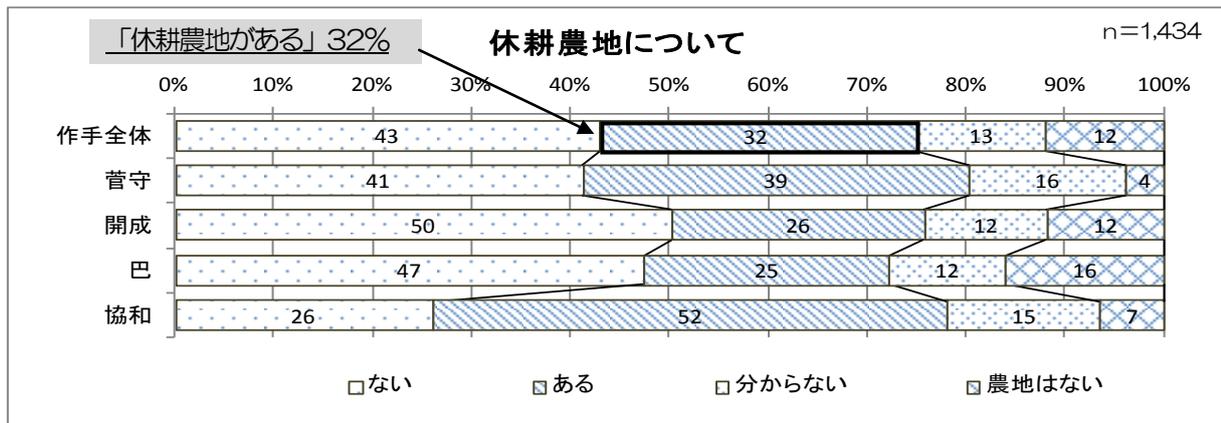


5 農業について (3)

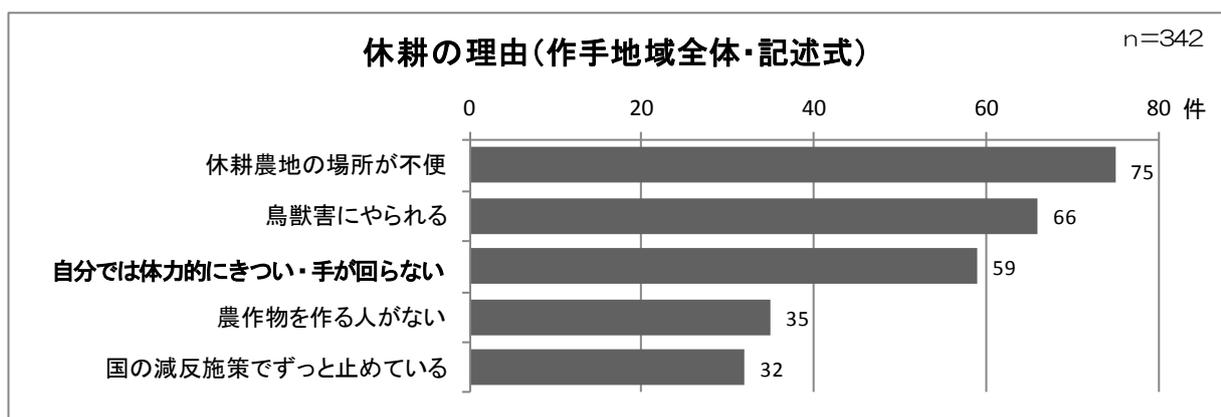
農業後継者 全体では、農業に携わっている場合「後継者となるかわからない」「後継者がいない」の割合が高い。携わっていない場合「農家ではない」の割合が高い。地区別では、菅守で「後継者がいる」の割合が他地区より高い。



休耕農地の有無 全体では、「休耕農地がある」は3割程度である。地区別では、協和で「休耕農地がある」の割合が高い。



休耕している理由 「休耕農地の場所が不便」が最も多く、次いで「鳥獣害にやられる」「自分では体力的にきつい・手が回らない」「農作物を作る人がいない」「国の減反政策ですと止めている」などの順となっている。

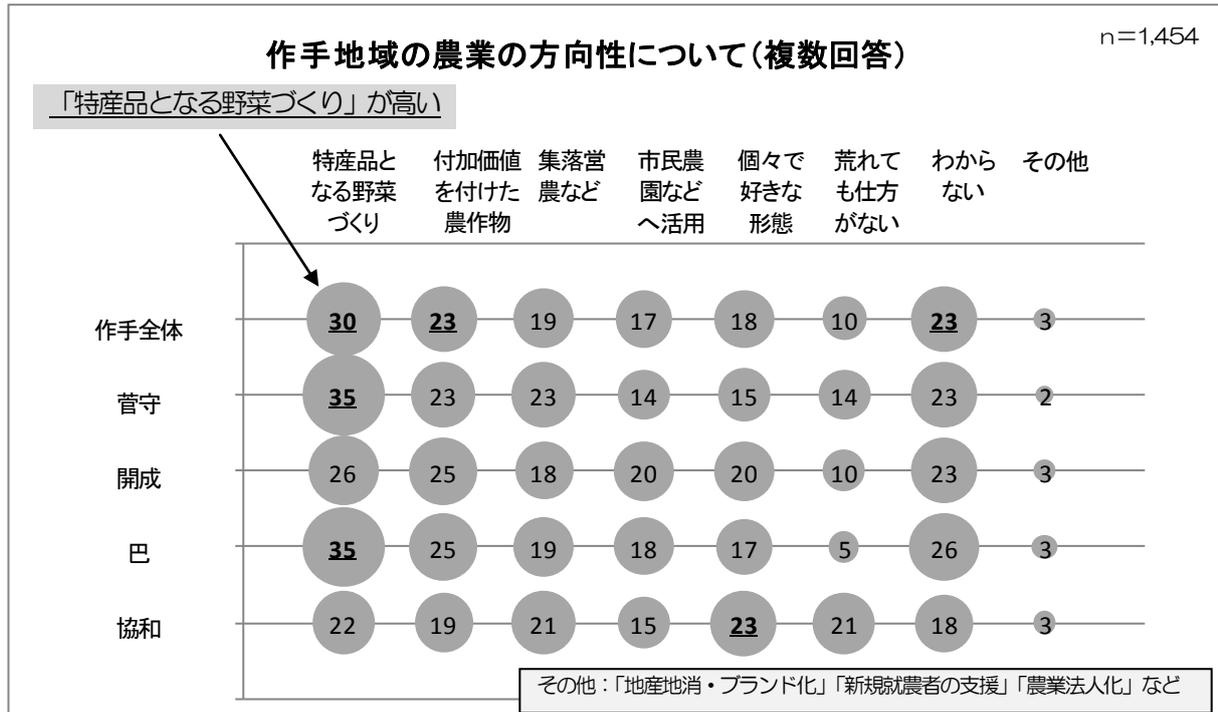


5 農業について(4)

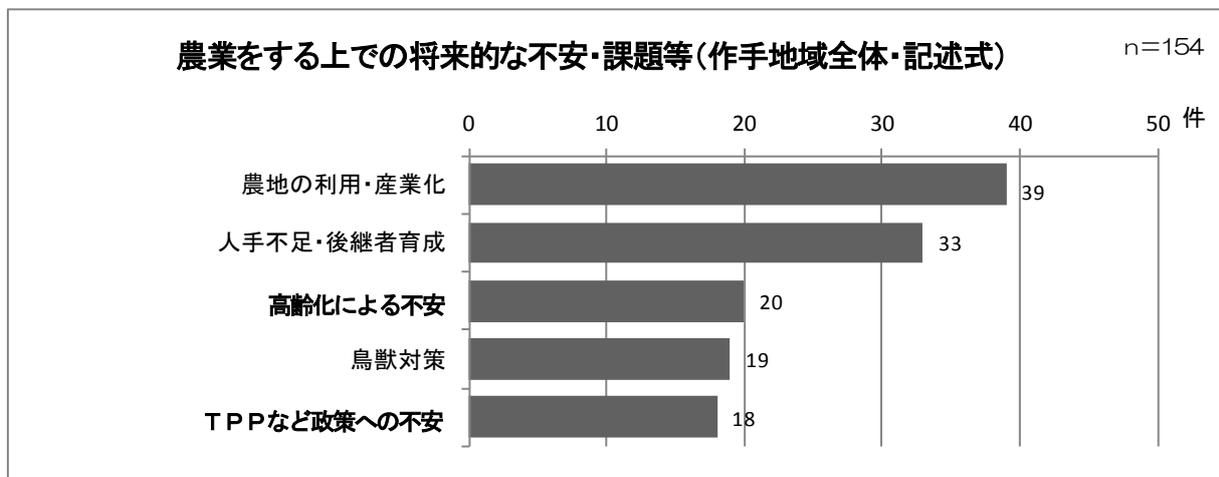
農業の方向性 全体では、「特産品となる野菜づくり」が30%と最も高い。次に「付加価値をつけた農作物」の割合が高く、その同程度で「わからない」も高い。

「その他」については「地産地消・ブランド化」「新規就農者の支援」「農業法人化」などの回答があった。

地区別では、「特産品となる野菜づくり」が巴、菅守で高く、協和では「個々で好きな形態」の割合が高い。



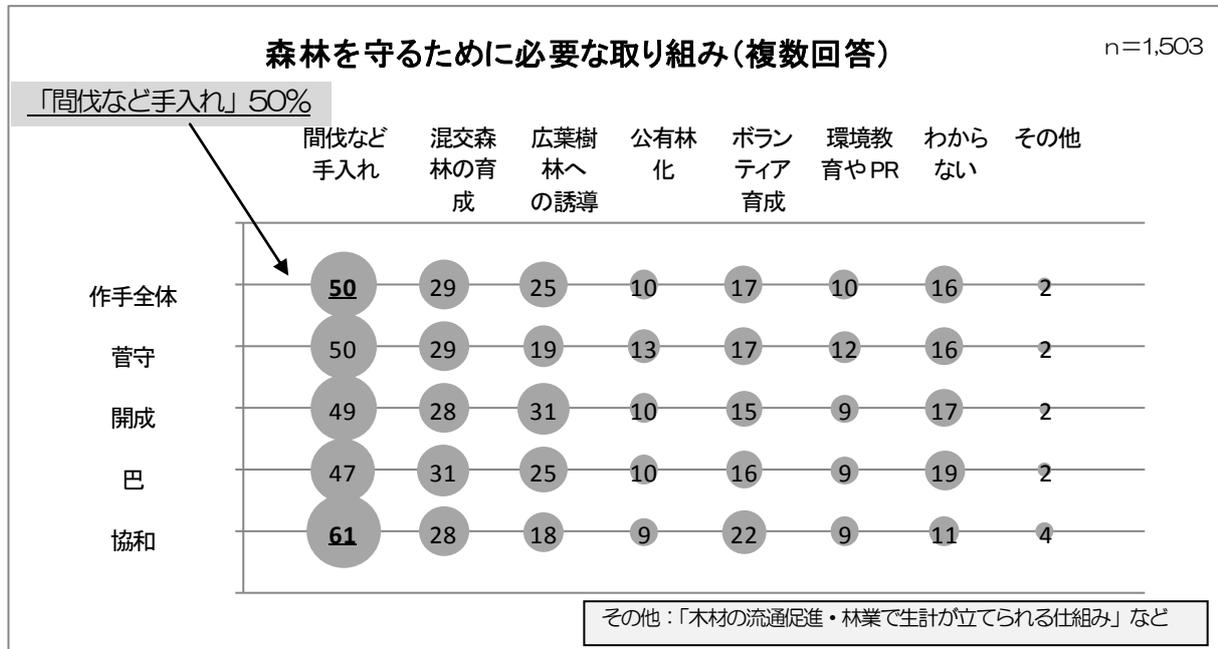
農業をする上での将来的な不安・課題等 「農地の利用・産業化」「人手不足・後継者育成」の順に多く、その他に「高齢化による不安」「鳥獣対策」「TPPなど政策への不安」などの回答が多い。



6 林業について (1)

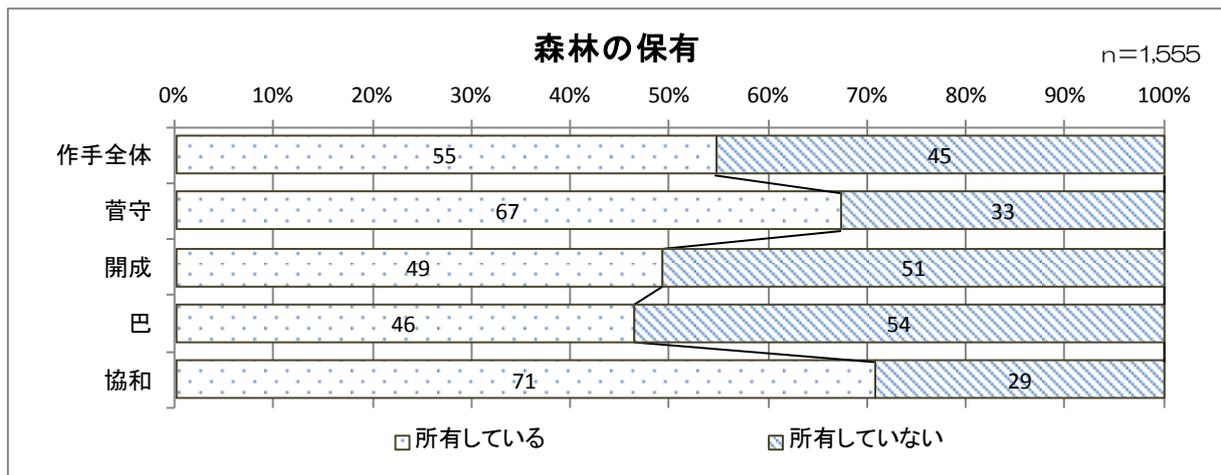
森林を守るために必要な取り組み 全体では、「間伐など手入れ」の割合が高く、次いで「混交森林の育成」「広葉樹林への誘導」の順に高い。

その他については「木材の流通促進・林業で生計が立てられる仕組み」などの回答があった。地区別では、協和地区で「間伐など手入れ」の割合が特に高い。



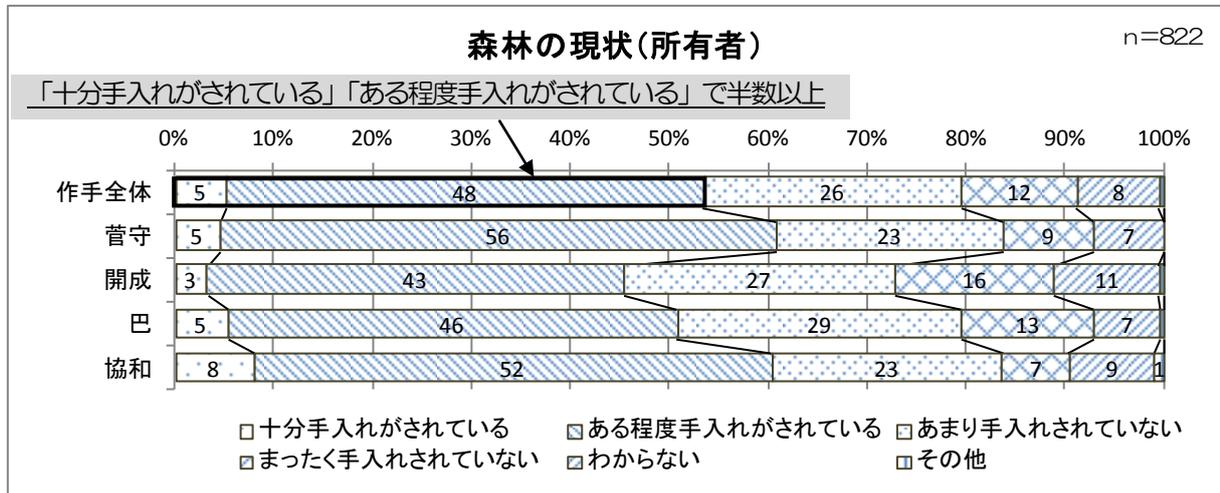
森林の保有 全体では、「所有している」の割合が「所有していない」を上回る。

地区別では、協和、菅守で「所有している」の割合が高い。

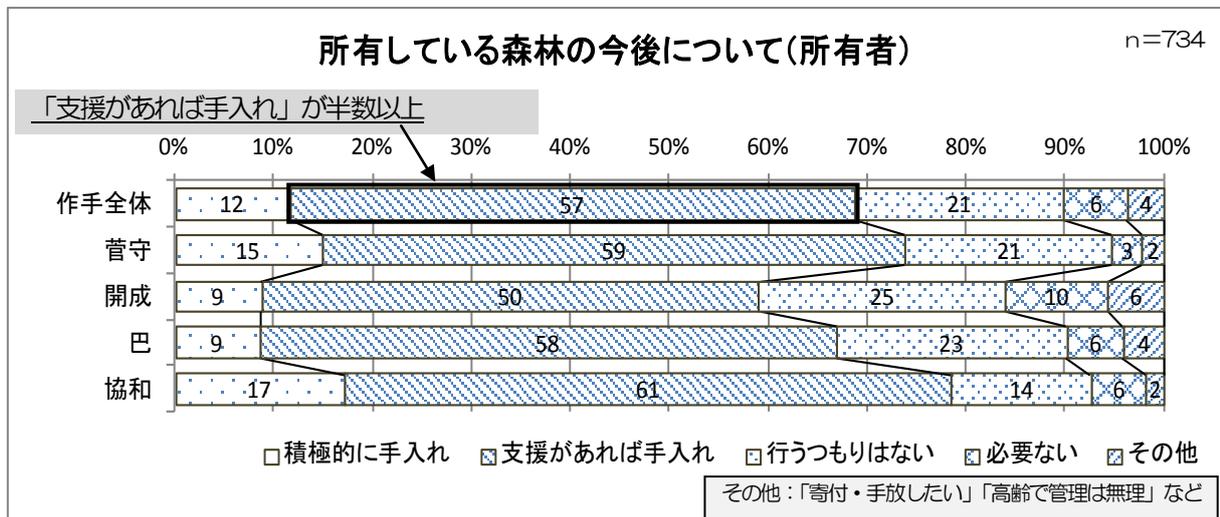


6 林業について (2)

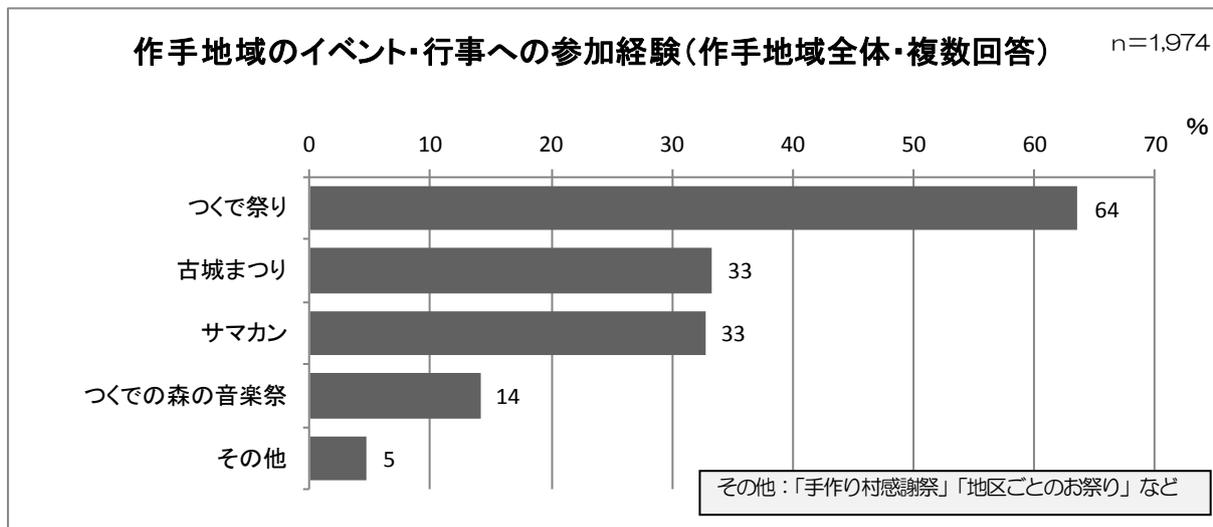
森林の現状 全体では、「十分手入れがされている」「ある程度手入れがされている」で半数以上を占める。
 地区別では、菅守、協和で「十分手入れがされている」「ある程度手入れがされている」が高い。



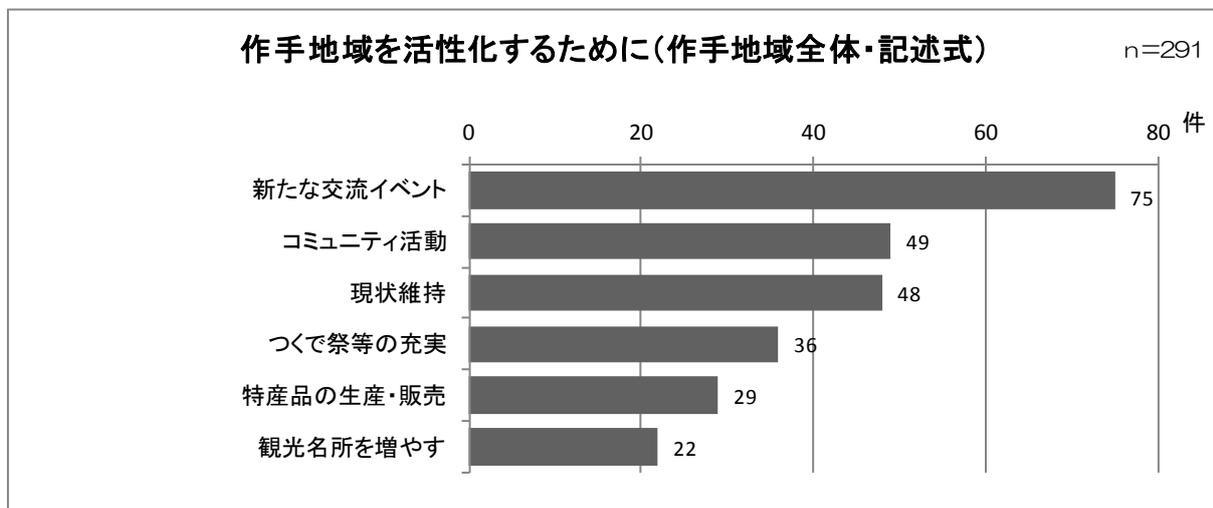
所有森林の今後 全体では「積極的に手入れ」が1割、「支援があれば手入れ」の割合が半数以上を占める。その他は「寄付・手放したい」「高齢で管理は無理」などの回答があった。
 地区別では、どの地区も「支援があれば手入れ」が半数以上を占め、協和、菅守で「積極的に手入れ」「支援があれば手入れ」の割合が高い。



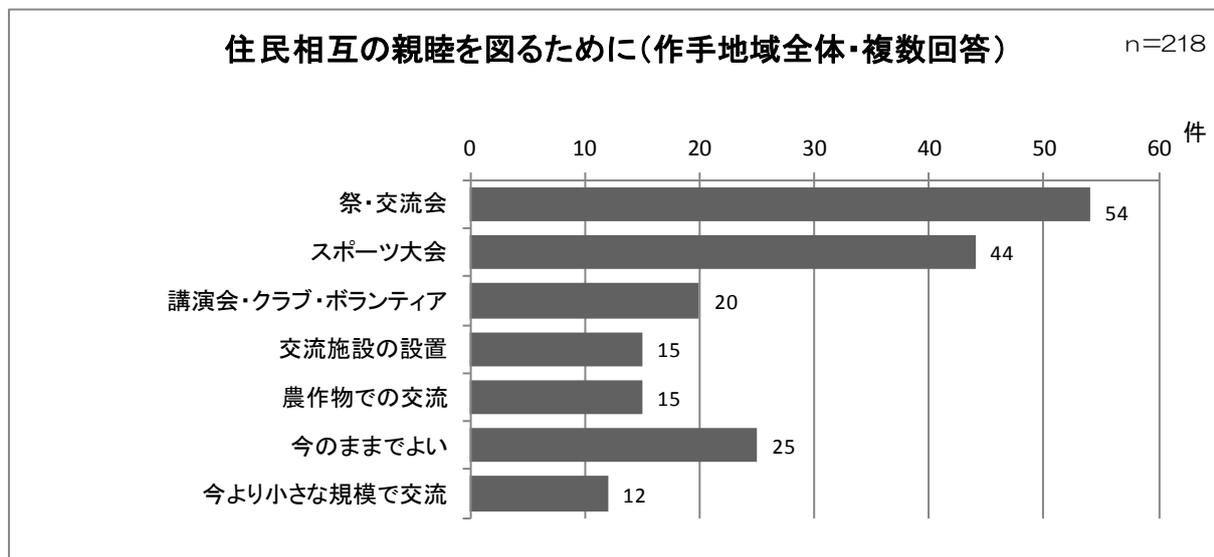
イベント・行事への参加経験 「つくで祭り」の割合が特に高く、次いで「古城まつり」「サマカン」が高い。「つくで祭り」はどの年齢層でも高い。「その他」については「手作り村感謝祭」「地区ごとのお祭り」などの回答があった。



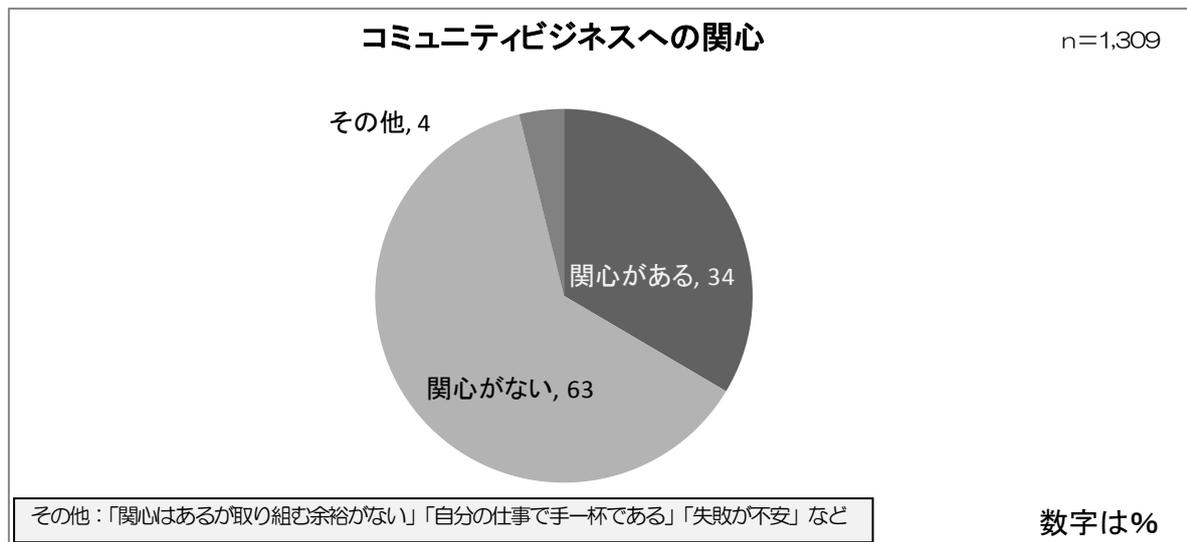
作手地域を活性化するために 「新たな交流イベント（スポーツ大会・ハイキング・婚活イベント・音楽祭など）」が特に多く、次いで「コミュニティ活動」「現状維持」の順に多い。



住民相互の親睦をはかるために 「(つくで祭り等を参考にみんなが集まれる) 祭・交流イベント」「スポーツ大会」などが多い。その一方で「今のままでよい」「今より小さな規模で交流」と言った回答もあった。



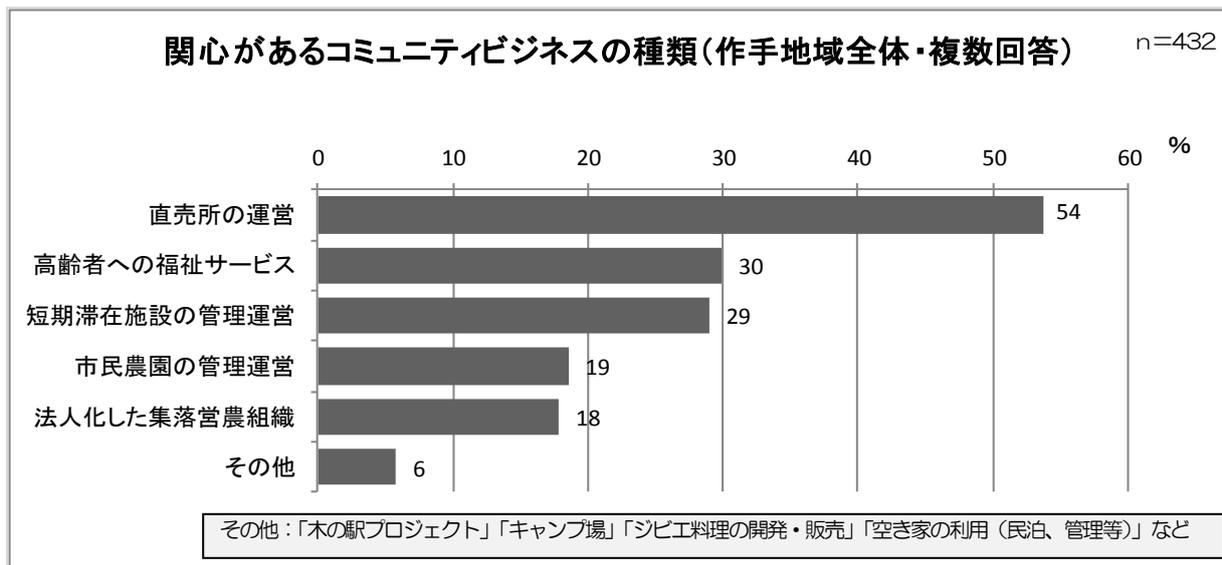
コミュニティビジネスへの関心 3割の人が「関心がある」としている。
 「その他」については「関心はあるが取り組む余裕がない」「自分の仕事で手一杯である」「失敗が不安」などの回答があった。



7 地域の交流・活性化（3）

関心があるコミュニティビジネスの種類 「直売所の運営」の割合が最も高く、次いで「介護認定されていない高齢者への福祉サービス」「空き家などを活用した短期滞在施設の管理運営」の割合が高い。

「その他」については「木の駅プロジェクト」「キャンプ場」「ジビエ料理の開発・販売」「空き家の利用（民泊、管理等）」などの回答があった。



8 自由回答

自由意見については全部で 148 件の回答があった。作手の現状や将来についての意見で多かったのは以下のとおり。

		主な意見
若者・働く場	23 件	若い人の働く場、若い人（40 代まで）の声を聞くべき
農林業・産直	22 件	販路開拓、山林の管理、農業学校、太陽光
高齢者・介護等	15 件	元気な高齢者の働く場・居場所、介護サービスの充実
小学校等既存施設活用	13 件	体験・宿泊・農業教室・公園等に活用、既存施設の活用
観光・交流	10 件	高原・山を活かす、案内標識の設置、道の駅の充実
道路・交通	5 件	公共交通サービス（家の前まで来てくれる・降雪時にも稼働する）、国道 301 号以外の道路の拡幅

アンケート結果の詳細版、行政区別の結果について、作手地域自治区のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

ホームページ <http://www.city.shinshiro.lg.jp>

<お問い合わせ先>

作手自治振興事務所（新城市役所作手総合支所内）

電話 37-2280 FAX 37-2216

e-メール tsukude-jichi@city.shinshiro.lg.jp